

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 自殺者対策

日本では、平成10年以降の自殺者数が年間3万人前後で推移していますが、国は「地域自殺対策緊急強化基金」を活用し、創意工夫を凝らした対策を求めています。この6月に内閣府自殺対策推進室から「地域における自殺対策取組事例集」が発刊され、同基金を活用した事業の中から、他の地域の参考となる53の先進事例が取り上げられ、その一つとして本市（健康増進課）の取り組みも紹介されています。ちなみに、本市の自殺者数は平成23年度に前年度の2倍を超え25人。残念ですが、人口に占める自殺死亡率が県下でトップになりました。年代別には50代がピーク。翌年度は17人に減っています。

上記事例集の紹介によると、本市の取り組みは「こころのサポーター養成講座事業」と「こころのサポーター支援事業」。それぞれの目標と内容は、養成講座事業では、心の病気について正しい知識を持ち、相手のサインに気づき速やかに相談窓口につなぐことなどを目標に、市職員や一般市民、母子保健推進員、健康推進員、企業の担当者等を対象にして、自殺者の遺族から体験談を聞いたり、うつ病や自殺に関する基礎知識の講義。また支援事業では、サポーターの悩みの共有・負担の軽減、傾聴の技術習得等を目標に、講義のほか、ロールプレイやグループワークにも取り組んだそうです。受講生は、初年度の平成23年度は35人でしたが、2年目は86人、3年目となった平成25年度

は235人と大幅に増加しています。参加者の事業継続の要望は強く、今年度も9月以降に実施する予定です。また、受講をきっかけにカウンセラーに転職し、事業に協力してくれる人も出始めたとか。

本市の総合計画に掲げる「活力ある住みよさ創造都市」の理念と、「市民の自殺」という現実とは、全く相いれない方向であることを自覚し、更なる「住みよさ」の追求に向けて努力する必要を痛感しています。

■ 本市の観光ビジョン

この4月、産業振興部に観光課を設置しました。合併して9年。ようやく、また一つ、念願が叶ったところです。もっとも本市は、萩市や下関市のような観光立市ではありませんから、本市が置かれた環境や条件のもとで、観光課は基本計画や実施計画を十分に練り上げる必要があります。昨年度後半、その道の市内の専門家と公募した市民の協力を得て「観光懇話会」を立ち上げ、ワークショップや協議を重ねて、新設予定の観光課が拠って立つ土壌作りをしてもらいました。解散前に「提言書」をいただきましたので、これを踏まえ、目下、観光課では観光ビジョン案を作成しています。

その案を検討する「観光ビジョン検討委員会」を近く開催の予定です。市民のみなさんにも、パブリックコメントでご意見をお聞きしますが、どのような本市の観光ビジョンができていくのか、大変楽しみです。